

令和 7 年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	知・徳・体の調和がとれた、個性、感性豊かな人間性を育み、志を持って主体的に学び続ける生徒を育成する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①基本的生活習慣と基礎的学力の定着を図り、自己の課題解決に向けて、主体的に学ぶ力を育みます。 ②特色あるコースの学びにより、専門的な知識、技能を育みます。 ③他者の心情に共感する心を持ち、他者と協働して課題解決に取り組む力を育みます。 ④地域との連携した学びから、郷土への愛着や誇りを持った豊かな人間性を育みます。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①特色あるコースの教育課程、教育活動により、基礎学力と専門分野の知識・技能の定着を図ります。 ②学校行事及び探究学習を充実させ、他者と協働して課題を解決する学習に取り組めます。 ③ I C T を利活用し、生徒の興味関心を引き出す「わかる授業」を実施します。 ④地域の施設や企業と連携し、地域理解や専門分野の理解を深める実習の充実を図ります。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①本校の教育方針や特色あるコースの教育活動を理解し、自らの目標に向かい、主体的に活動することができる生徒 ②他者を尊重し、様々な課題解決に、協働して取り組むことができる生徒 ③学校や社会のルールやマナーを遵守し、自らを律する心と態度を持つ生徒 ④地域社会に興味関心を持ち、積極的にかかわろうとする生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
基本的生活習慣が確立され、生徒が学業、部活動に落ち着いて取り組んでいる。今後は希望進路実現に向けて、個に応じた指導を充実する。また、スキー部、レスリング部、陸上競技部が全国大会や北信越大会で活躍する成果を上げた。 課題としては、基礎学力の向上、学習習慣の定着、進路希望への挑戦と自発的な行動、I C T の常用的な活用、総合的な探究の時間における組織的な改善、八海高校教員の「勤務時間の上限にかかる方針」に基づいた時	○「豊かな人間性」の育成 ・生徒指導やボランティア活動 等により規範意識や自己有用感 を育む。 ・学校行事や部活動での協働をととして他者を敬愛する精神を養う。 ・いじめ見逃しのない、安全、安心な学校生活環境を提供する。	生徒が主体的に取り組む学校行事や生徒会行事を 実践し、互いを尊重した態度や行動を育成する。 また、いじめを見逃さない環境整備に向け、生徒の 悩み等に早急に対応するための定期的なアンケート 調査の実施及び全教職員の組織的な対応を徹底する。 部活動の推進、人権教育・同和教育の推進、ボラン ティア活動の奨励。教職員自ら模範を示すとともに、 生徒の考えや声に寄り添い、学校全体で丁寧かつ継 続した指導を徹底する。
	○「確かな学力」の育成 ・ I C T 機器を有効利用するなどわかる授業を実践し、 生徒の 主体的な学びを支援する。 ・生徒一人ひとりの能力を引き 出すとともに、進路 実現のため、丁寧な進路指導を行う。	アクティブラーニング、学び合い、ユニバーサル デザインの視点を活かした「わかる授業」を実践する とともに、 I C T を利活用し生徒の意欲喚起を図ると ともに家庭学習を定着させる。また、基礎力診断テ スト等の結果を分析・検討し「高校生のための学び の基礎診断」による指導の工夫・充実を図る。 体験学習を中心としたキャリア教育を充実させる。 「総合的な探究の時間」において、各教科等で講座 を作り、本校の特色を踏まえ、生徒の主体的な学

間外勤務の削減があげられる	・「総合的な探究の時間」を通して全校生徒・地域・全教員が一体となった「チーム八海高校」を作り上げる。		びと探究的な学習の推進を図る。また、生徒一人一人の能力を引き出す丁寧な進路指導を実践する。	
	基礎体力と運動能力の向上を図り、自己管理能力を高める。		体力テストの実施、基礎体力の向上、部活動の活性化、健康管理指導の充実。	
	働き方改革の一層の推進のため、業務の精選及び授業改善を図り、生徒と向き合う時間を確保する。また、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組む		・部活動の適正実施。 ・業務の精選、簡素化、効率化。 ・業務の組織的な対応の徹底。 ・定時登退庁に対する意識の徹底。 ・時間外勤務時間の削減。	
重点目標	具体的目標	部署	具体的方策	評価
確かな学力の育成	生徒の主体的・協働的な学習を推進し、学習習慣の定着と基礎的事項の理解を確実にする。	教務部	・ICTを含めた教育環境の整備。	
		1 学年	(1) 基本的習慣の確立。 ・生活習慣の確立を促し、心身の健康を大切にするよう働きかける。 ・日々の予定を意識させ、必要な情報は自分から収集できる力を育む。 (2) 学習環境の整備。 ・時間を厳守し、遅刻しない雰囲気を醸成する。 ・集中して学習に取り組めるように、身の回りの環境整備を意識させる。 (3) 学習習慣の定着と各種資格取得への挑戦。 ・不得意な教科・科目に対しても諦めずに、取り組めるような支援をする。 ・自身の可能性を広げることの大切さを伝える中で、各種検定試験への挑戦を促す。 (4) 進路についての「知る」を大切にする。 ・多様な職業や進路を知る中で、自身の将来について考えるように働きかける。	
		2 学年	(1) 基本的生活習慣の確立。 ・時間を守り、自ら挨拶し、正しい服装・頭髪で過ごさせる。 ・部活動や生徒会行事に積極的に参加し、時間の有効な活用や社会性を育成する。 ・定期的な生徒面談により、生活面、学習面、精神面の把握をし、適切な指導や支援を行う。 (2) 学習環境の整備。 ・教室内の整理整頓、自分の身の回りの整頓を促し、学習環境を整え、学習習慣の定着につなげさせる。 (3) 学習習慣の定着と各種資格取得への挑戦。	

			・復習に重点を置き、毎日１時間の家庭学習時間を確保、継続させる。 ・不得意な教科・科目にも意欲的に取り組む姿勢を育成する。 ・各種検定試験に挑戦することの重要性を説く。 (４) 自分の進路「選ぶ」。 ・情報収集をしっかりと行い、比較検討することで、自分に最適な進路及び進路先を開拓させる。 ・学科の特性を生かした進路の実現に取り組ませる。		
		3 学年	(１) 「豊かな人間性」の育成。 ・挨拶、身だしなみ、提出物の期限厳守など規範意識を持たせる。 (２) 「確かな学力」の育成。 ・授業を大切にし、積極的に授業へ参加する働きかけをする。 ・目標に向かって継続的に努力し、努力の大切さと達成する喜びを体験する (３) 「進路実現の実践的な力」の養成。 ・「自分自身の適正等を踏まえた上で進路を決定し、保護者との話し合いを進める」「進学・就職試験の内容を良く確認し、十分な準備をおこなう」といった具体的な対策に力を入れる。		
		進路指導部	・「高校生のための学びの基礎診断」の結果などの適切な情報を学年に提供し、指導に活かす。		
		各科共通	・アクティブラーニング、学び合い、ユニバーサルデザインの視点を活かした授業改善。 ・生徒の実態や場面に応じたＩＣＴ機器を効果的に活用した授業改善。		
		国語	・言葉による見方・考え方を働かせた学びあいの授業をとおして、国語の面白さを追求する。		
		地理歴史 公民	・プリント、補助教材、視聴覚教材等を活用したわかりやすい授業の実践を図る。		
		数学	・教え合うなどの学び合いを重視した授業を展開する。		
		理科	・授業ノート・プリント、視聴覚教材等を活用し、実験等を通じ、周りと協力しながら学び、理解を深められる授業の実践を図る。		
		保健 体育	・生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与することを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
		芸術	・作品等の制作を創造的かつ計画的に進め、目標に向かって主体的に行動する能力と態度の向上を図る。		
		外国語	・英語でのコミュニケーションの楽しさを示し、分かりや		

			すい授業を展開する。		
		家庭	・実習や体験学習を計画に従って実施し、相互で学び合う中で知識や技術を定着させる。		
		情報	・情報に関する見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を育成する。		
		福祉	・資格取得や高齢者、障害者等との関わりを通し、福祉に関する知識・技術の習得を図る。		
		商業	・資格取得や検定合格に向けた学習を通し、商業に関する知識・技術の習得を図る。地域連携を推進する取り組みを行い、地域社会への理解を深める。		
進路希望への挑戦	大学・短大等上級学校への進路希望達成率の向上 ・進路に対する意識啓発	進路指導部	・上級学校見学、進路ガイダンス等による進路意識の啓発。 ・就職指導及び進路実現に向けたキャリア教育の充実。 ・全職員で小論文、面接指導を行うための研修と割り振り。		
	・進路情報提供の充実	進路指導部	・「進路通信」等の進路情報発刊。 ・学びの基礎診断認定ツールの有効活用。 ・高卒 Web（求人票情報）の有効活用。		
豊かな人間性を育成	・いじめのない望ましい人間関係の確立	人権教育同和教育委員会	・教員が各種研修会に参加し、研修等で学び得たことをもとに、生徒に正しい知識や考えを伝え、生徒の心に響く人権教育、同和教育を実践する。 ・小・中学校における人権教育、同和教育の内容や学びをアンケート等により把握し、生徒の現状に対応した効果的な学習が展開できるように努める。		
		いじめ防止対策委員会	・いじめアンケート等にもとづくいじめの早期発見、早期対応。		
		生徒指導部	・SNS等、ネット利用についての指導の充実。		
		教育相談委員会	・教職員への教育相談・特別支援教育・等に関する情報提供。 ・UDLを用いた授業の展開を通じ、生徒の自己肯定感の育成・対人関係スキルの向上を図る。 ・SCとSSWの活用。		
		福祉科	・相手の思いに沿った支援を学ぶ活動を通し、他者への共感的理解を大切にする姿勢の育成。		
	・学校行事、部活動の推進	生徒指導部	・学校行事、部活動の充実を図り、心身を鍛えて積極的に挑戦する意志を育成する。		

生徒指導 の充実	教職員の共通理 解による指導	生徒 指導部	・マナーの向上と基本的生活習慣の定着。 ・清掃活動を通して、校内の美化に努める。		
	生徒の基本的生 活習慣の確立	生徒 指導部	・校内・校外における挨拶の励行。 ・スマホ・携帯電話使用マナーの指導強化。		
総合的な 探究の 時間	全校職員、地域 が一丸となって 未来に向けた人 材の育成を図る	全職員	・全校生徒が主体的に自らの振り返りと生き方を考える機 会を設定し、テーマに基づいた探究的な活動が実践できる よう指導する。 ・地域との連携を推進し、他者との協働による課題解決能 力の育成と地域理解の向上を図る。		
基礎体力 と運動能 力の向上	心身の健康に関 心を持たせる。	生徒 指導部	・自己の健康管理を積極的に行う生徒の育成。 ・校内関係者や各組織、ＳＳＷと連携した健康相談の充実。		
	基礎体力や運動 能力の向上を図 る。	保健 体育科	・個人種目の全国大会の入賞を目指した専門種目の充実。 ・保健体育の教科による体力テストの実施。		
働き方 改革	・部活動の適正化 ・業務の削減、簡 素化、効率化	全職員	・複数顧問制や輪番制による部活業務の分担。 ・定時退庁日には 17 時 45 分までに完全退庁。 ・生徒と向き合う時間の確保。		
成果					総合 評価